

スタートアップが集い ともに修行をする場 『START』

小豆島には空き家が沢山あります。とはいえ、仕事がなければ小豆島に住むことは出来ません。であれば、小豆島の空き家を「修行の場」にしてしまえばいい。それが「START」です。まずは小豆島の空き家を「Idea House」と「Start Dash」の2種類に分けます。「Idea House」は飲食店開業を目指す若者たちが一時的に暮らすシェアハウスです。そして「Start Dash」は飲食店を試験的に運用するための施設です。飲食店開業を目指す若者は無償でどちらも利用できます。ただし、「地元食材を生かした新しい飲食店」が条件です。



- プロジェクトメンバー**
- | | |
|------------------|---|
| 芝浦工業大学デザイン工学部 2年 | 林 響紀 |
| 芝浦工業大学デザイン工学部 2年 | 秋葉 美怜 |
| 芝浦工業大学デザイン工学部 1年 | 蒲 朋恵 |
| 香川大学工学部 3年 | Sayyidatul Nur Afiqah
Binti Abd Ghafar |

ポイント 「Idea House」と「Start Dash」の2種類

起業するためには、様々な情報交換が必要です。昨今ではこうしたニーズとコストダウンを狙ったスタートアップ用のシェアオフィスが増えています。ですが、飲食店として考えた場合、厨房をシェアすることになるため、それは少し難しいでしょう。そこで考えたのが、「Idea

House」と「Start Dash」です。情報交換はシェアハウス、それぞれの仕事は各々の建物といったように区分けすることで、この問題を解決します。

でも、これだけでは小豆島に一切のメリットがありません。そこで考えたのが「地元食材」というルールで

す。小豆島の食材でメニューを考案すれば、たとえ小豆島じゃない場所で飲食店を開業したとしても小豆島に発注が来ます。結果、長い目で見た際に小豆島に多くのメリットが生まれます。つまり、「最終的な場所」にこだわらないことが提案のポイントです。



感想 様々な多様性を体験

日本の他大学同士の連携プロジェクトとして、芝浦工業大学と香川大学の学生が香川県小豆島でワークショップを行いました。地方創生のデザインがテーマであった今回のワークショップは、地方出身の私にとっては非常に興味深いテーマであったのが参加を決めた要因でした。私たちのグループには香川大学

生で海外からの留学生もいたため、話し合いの際により広い知見で様々な意見が出たことがとてもいい経験になったと思います。普段同じ学部にも演習で被らない学生の意見やデザイン案を参照出来たこともいい点だと感じました。中には面白いアイデアがたくさんありとても参考になりました。そして何より美しい小

豆島でいつもの日常から離れた暮らしや体験が出来てよかったし、またその環境づくりをしてくださった両大学の先生方、地元の方々にとっても感謝しています。改めて今回の貴重な体験をありがとうございました。また機会があれば参加したいと思うワークショップであったと思います。(林 響紀)